

- ・青葉山の景観を守り、中層程度の自然に溶け込む施設規模とする。
- ・震災を踏まえ、新築・改築の際にはグラウンド等昔の沢筋を埋めたと考えられる土地では、地盤状況等に細心の注意を払い、慎重な計画を行う。また、建替えも含め、新たに施設を建設する際には、青葉山の地盤特性及び景観を考慮し、原則6階建以下の施設とし、用途に応じて免震や制震構造とする。
- ・オープンラボスペースを積極的に設置する等、各系の垣根を越えて流動的、効率的な施設活用を行う。
- ・建て詰まりを解消し、長期的な更新に配慮した計画とする。
- ・環境科学研究科の新キャンパスへの移転を契機に敷地・施設の有効活用を図る。
- ・歩行者空間の賑わい、緑地景観との調和に配慮した計画とする。
- ・キャンパスモール予定区域の南側は原則として、低層の福利厚生施設のみとし、新たな造成、建築等は行わないことが望ましい。
- ・アクセスの良さを考慮し新規施設については出来るだけ青葉山駅からのアクセスが容易な敷地への建設を優先することが望ましい。

■新規整備施設

	整備施設		計画規模	階数
1	研究棟分館	改修	1,050m <sup>2</sup>	3階
2	電子・応物系実験棟	新築	5,500m <sup>2</sup>	3階
3	機械系1号館	改修	5,712m <sup>2</sup>	2階
4	機械系2号館	改修	6,778m <sup>2</sup>	2階
5	マテリアル・開発系実験棟	新築	4,000m <sup>2</sup>	4階
6	量子エネルギー工学専攻本館・講義棟他	改修	3,929m <sup>2</sup>	1~4階
7	高速中性子実験棟・臨界未満装置実験室	改修	1,664m <sup>2</sup>	1階
8	地震予知センター別館	改築	320m <sup>2</sup>	2階
		改修	1115m <sup>2</sup>	3階

- 新築建物
- 改修建物
- 教育研究基盤支援棟
- 保存緑地
- 駐車場 (Phase2)
- 敷地境界
- 計画建物
- 改修計画建物
- 取り壊し建物
- オープンスペース
- 建設可能用地 (要駐車場検討)

